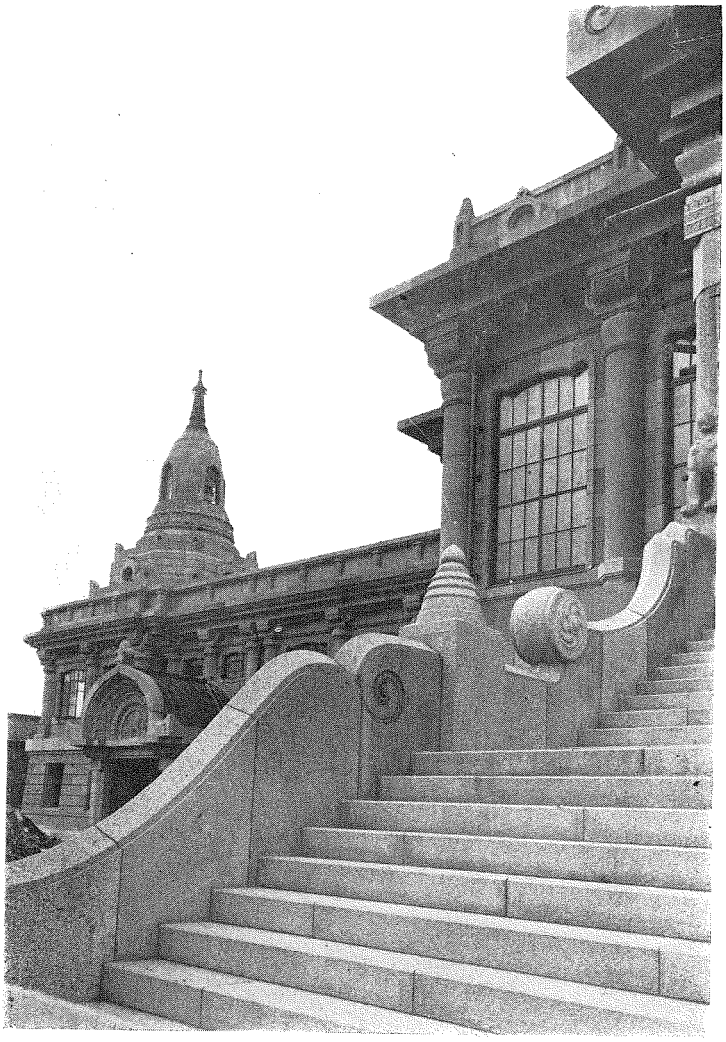
竣功に近づきたる築地本願寺

1

昭和六年五月、松井組の手によつて基礎工事に着手以來、鋭意進工中の築地本願寺復興工事は、外裝工事を殆んど完成し、目下內部仕上げに努力中であるが、大體十月中旬、遲くとも下旬には完成の見込みであるが、本堂內部一部模様替のため、全部の竣功は二三ヶ月延期される模様である。

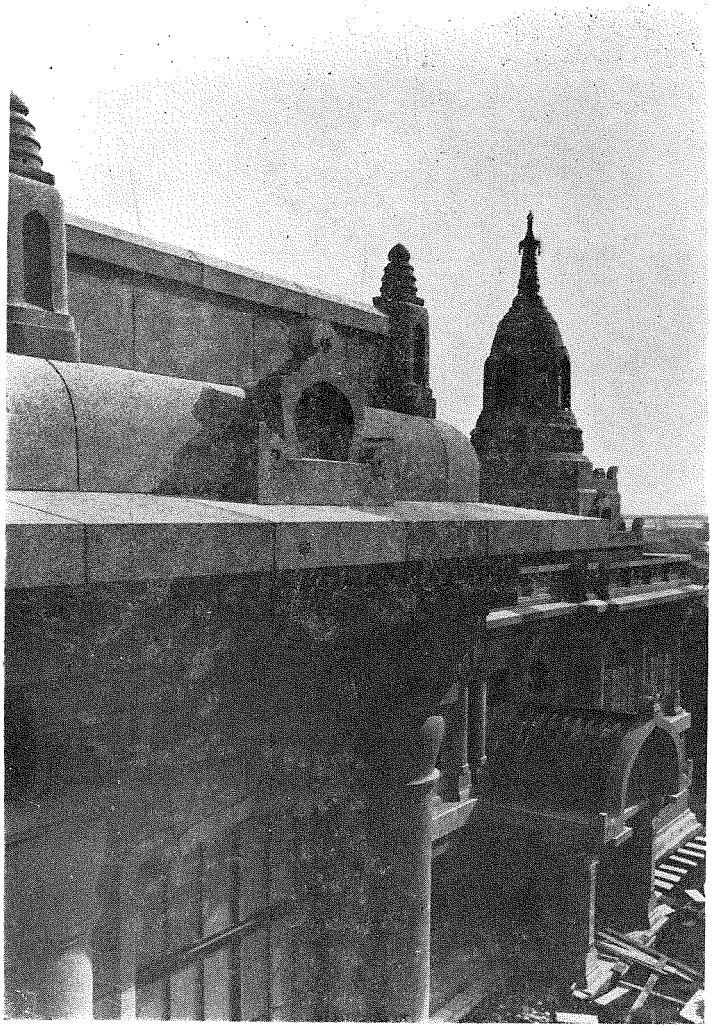
2

本願寺左翼、一階は總會所、二階は議場、左端の塔屋は鐘樓である。外裝、胴蛇腹まで北木島産鬼花崗石、その上部二階の蛇腹まで人造石小叩仕上、蛇腹以上は人造石洗出し仕上げである。工學博士伊東忠太氏の設計で、様式は大體古代印度佛教式と云ふのが妥當である。



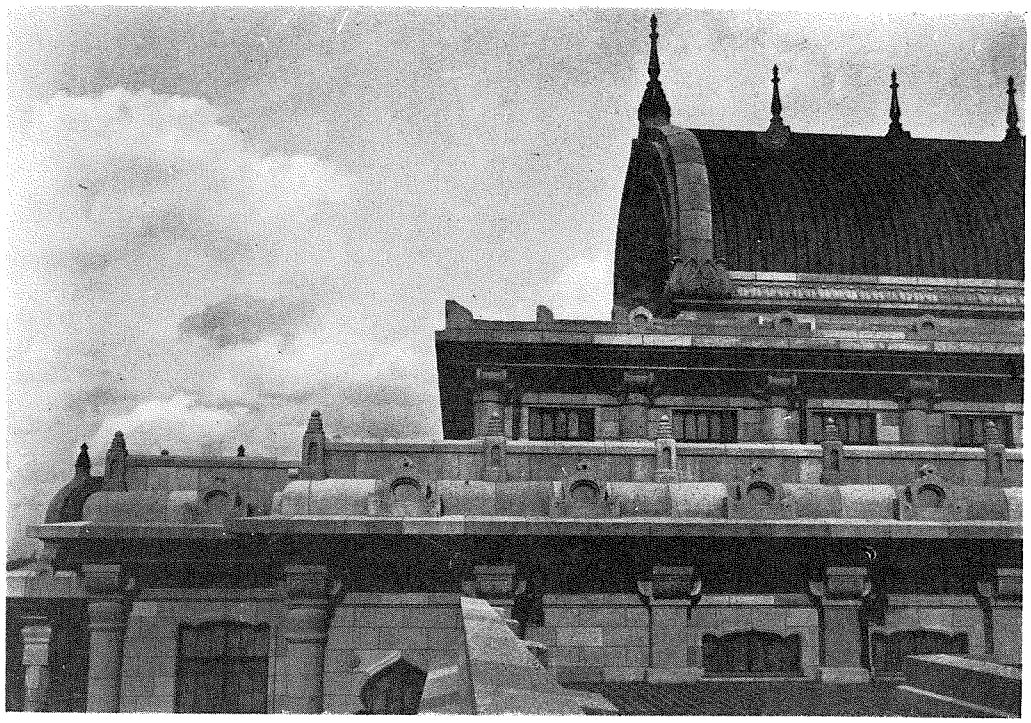
3

本堂正面向拜の階段から左翼を見る。階段の下が自動車の車寄となる。手摺は鬼花崗、段石は萬成石である。



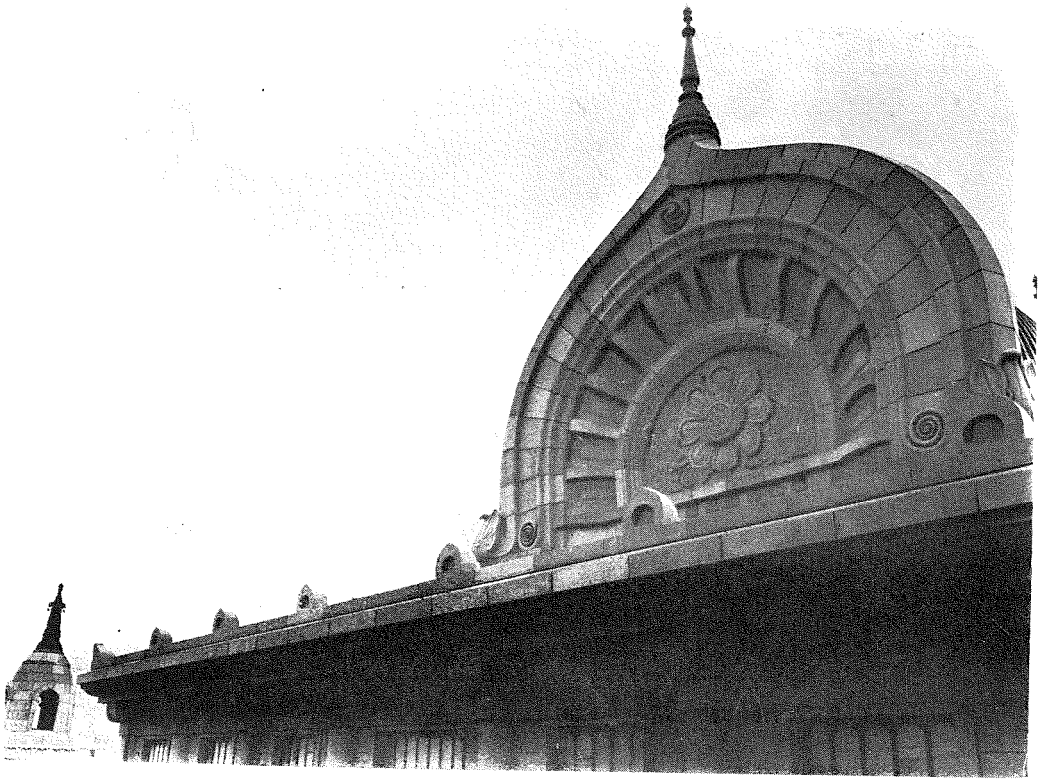
4

向拜上部より右翼を望む。塔屋は鼓樓。細部には爪哇のプロ、ブドゥその他印度系の地方の手法が適用されてゐる。



5

右翼屋上より本堂屋根を望む。丸屋根は銅板瓦棒葺、各寶頂は電鑄である。(6) の寫眞は本堂の大ゲーブル紋様を示すもので、人造洗出し仕上げである。完成の上は莊嚴な古典的様姿が異彩を放つて東京名物の一つにならう。



6

工事は本堂の內部も本年內に完了の筈で、その上は周圍の假設建物を取拂ひ、建物に調和した印度式を加味せる石杭の塀を圍し、自動車300臺を容れるに足る廣場を設ける。落成入佛式は明春三四月の豫定である。

（**解說**　德岡　鼎　•　**撮影**　本誌寫眞部）